

臨床研究に関する情報公開

「当科における胃 Gastrointestinal stromal tumor (GIST) 切除症例の検討」へのご協力のお願い

当院の研究責任者

外科 田端正己

他の研究機関および各施設の研究責任者

なし

研究の対象

2001年1月～松阪中央総合病院で胃 GIST の切除術を受けられた方

研究目的・方法

Gastrointestinal stromal tumor (GIST) は、消化管運動に関与するカハール介在細胞に由来する間葉系腫瘍です。その頻度は10万人に1～2人とまれで、60歳代を中心に中高年に多く、性差は認めません。発生部位は胃(50～70%)が最も多く、次いで十二指腸・小腸(20～30%)、大腸(約10%、ほとんどが直腸)、食道(2%)の順で、消化管外の腸間膜や大網にもごくまれに発生します。

胃 GIST 治療の第一選択は外科的切除であり、従来、開腹手術が行われてきましたが、GIST は完全切除できればリンパ節郭清は不要なことから、最近では腹腔鏡下手術が行われることが多くなってきました。さらに内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)手技の発達により、腹腔鏡・内視鏡合同手術(laparoscopy and endoscopy cooperative surgery : LECS)も広まりつつあります。そこで、当科で切除した胃 GIST の治療法の変遷やその成績を検討するのが本研究の目的です。

研究に用いる試料・情報の種類

検査所見やカルテ記載、病理組織所見等の診療情報

外部への試料・情報の提供

ありません

個人情報の取扱い

研究に使用する情報から個人を特定できるものは削除します。学会および論文発表において対象者を特定できる個人情報は一切使用しません。

研究資金源・利益相反

ありません

お問い合わせ先

0598-21-5252 田端正己